NIE実践報告

1．タイトル：**アップとルーズで伝えよう**

2．学校名

神奈川県横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校

3．実践者名（代表者名）

織田　宗之

4．学年

第4学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　40人

6．単元（本時の学習課題）名

「アップとルーズで伝える」

7．目標（狙い）

教科書題材である本文の内容について、実際に新聞の写真から「アップ」と「ルーズ」で掲載している送り手の意図を考える。

8．評価の視点

掲載された写真と記事とを関連づけて、その意図するところを自分なりに考える。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「アップとルーズで伝える」（教科書教材：光村図書）6時間　（本時5時間目）
「四年三組から発信します」10時間　合計16時間

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①教材文「アップとルーズで伝える」を読み、学習全体のめあてをもつ。(1時間)
②「アップとルーズで伝える」の要旨をとらえて筆者の考えをつかむ。（3時間）
③各自で、新聞を持ち寄り、実際に「アップ」と「ルーズ」ではどのような記事が多いのかを探す。（本時）

(留意点)
・政治や経済など記事内容が分かりづらいものについては、深く踏み込まず概要を伝える。
・アップとルーズではどんな記事の違いがあるか、それぞれの視点で切り抜かせる。
・グループで切り抜いた写真を見せ合い、お互いに記事と写真との関連について意見交換する。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・新聞報道の写真から、自然や全体像を伝えたい時には、ルーズが多いことが分かった。
・スポーツなどは、アップで撮ることで選手の表情やその瞬間の動きがよく分かる。
・全体を見せたいのか、一部を強調したいのかでアップとルーズを使い分けているのが分かった。

12．成果と課題

児童の反応に見られるように、「アップ」と「ルーズ」という教科書題材について、身近な新聞から自分たちで解釈を加えながら選別している姿がとても生き生きとした学習活動となった。「情報の取り出し」、「解釈」、「評価」というPISA型読解力を意識した学習において、様々な新聞を持ち寄り、お互いに比べ合い、共通点や相違点について話し合う活動が有意義に感じた。

課題としては、「アップ」と「ルーズ」という二項対立だけでは分けきれないものも中には多々含まれていたので、編集者の意図やその新聞の特色について知ることが大切だと感じた。